

学校部活動の

新たなあり方について



検討がはじまっています

奈良市学校教育課・スポーツ振興課・文化振興課

奈良市の現状

奈良市では、少子化等の進行により、市立中学校の生徒数及び部活動へ加入する生徒数が減少しているため、これまでと同じ体制で部活動を運営することが難しくなっています。国は、公立中学校等の休日の部活動を段階的に地域へ移行する方向性を示しており、本市においても、子どもたちが今後も持続可能であり、多様で豊かなスポーツ及び文化芸術活動に取り組めるよう、学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に向けた検討を進めています。

☑ **学校部活動から地域クラブ活動へ** 子どもたちの多様で豊かな活動のために

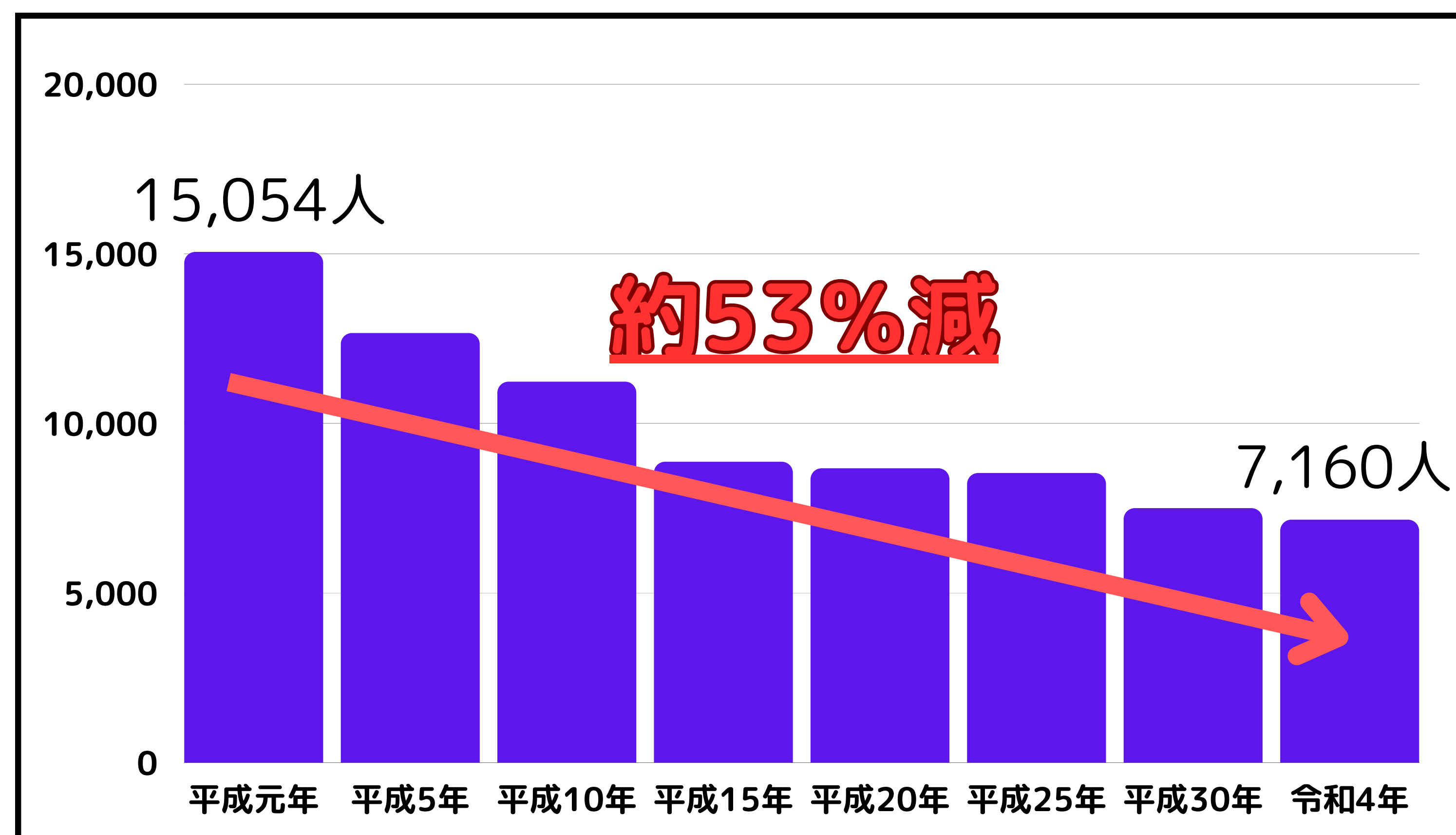
背景1 市立中学生の減少

市立中学校の生徒数は減少傾向にあります。

平成元年の15,054人から比べると、令和4年には7,160人となり、約53%減少しています。

☑ **中学生の数は約53%減少**

33年間で半分以下に
今後も減少が見込まれている



背景2 部活動への加入生徒の減少

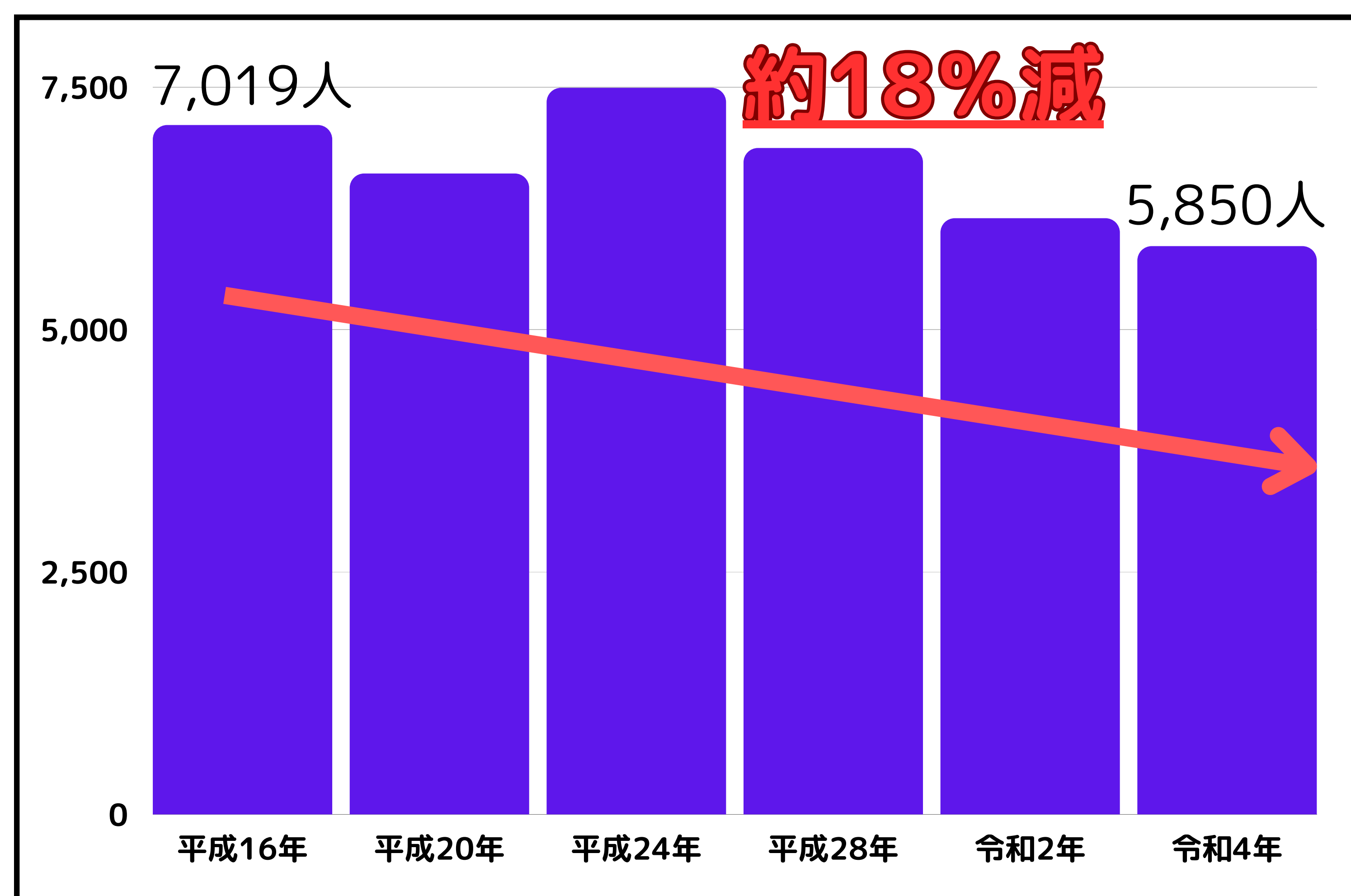
部活動への加入生徒数は、平成16年の7,109人から、令和4年の5,850人へと、約18%減少しています。このことから、団体競技において、1つの学校ではチーム編成ができないため、近隣の中学校と合同で活動したり、大会に出場したりするケースが増えています。

☑ **1部活あたりの人数の減少**

特にチームスポーツなど部員数が足りない
単独チームで公式戦や団体戦に出場できない

☑ **部活動設置数も減少**

令和元年から令和4年にかけて16部減少
やりたい部活が学校にない



Q 部活動の地域連携とは？

複数校でまとまって1つの部活動とする合同部活動の導入や、部活動指導員等の地域人材を活用することにより、あくまで学校で運営・実施しつつも、生徒の活動機会を確保するものです。



Q 部活動の地域移行って？

地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替するものです。学校とも連携しながら、多様な活動を、可能な限り低廉な会費で実施します。

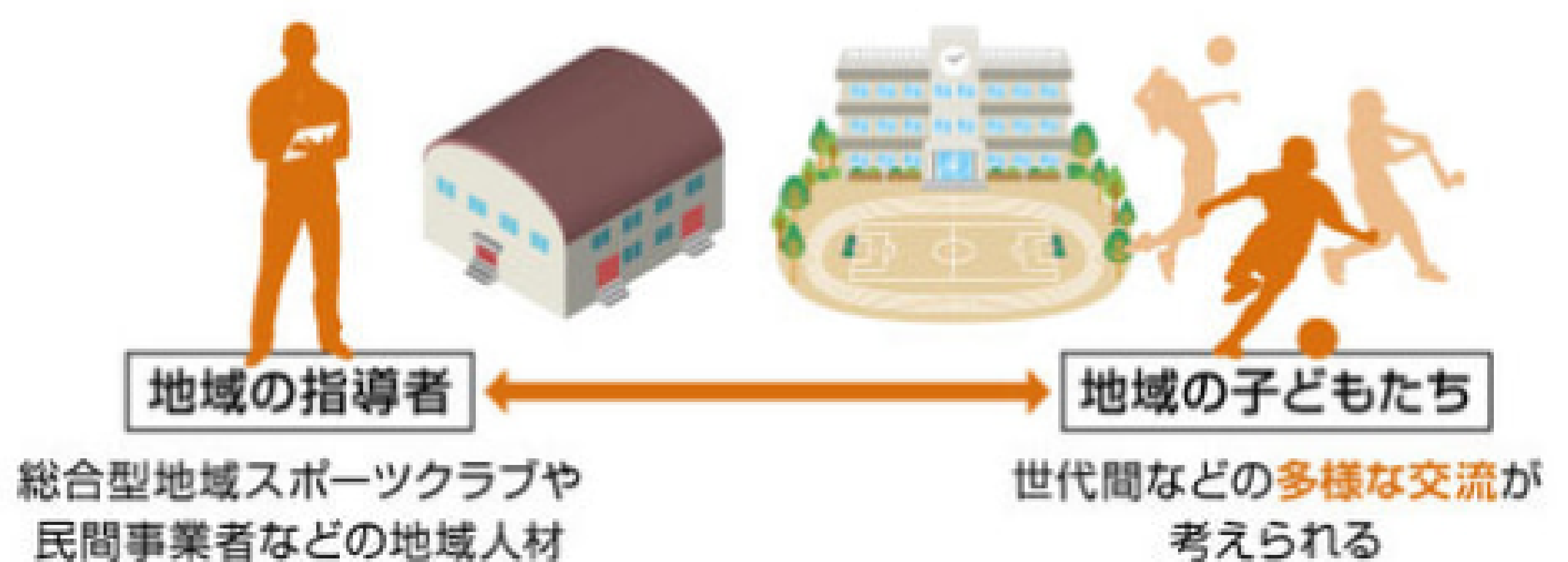


地域の実情に応じて段階的に移行

Q 「学校部活動」と「地域クラブ活動」の違いは？

- ・ **学校が主体** となっていて行われる部活動
- ・ **学校の中** で実施
- ・ **同世代・単一種目** での活動

- ・ **地域が主体** となっていて行われる活動
- ・ 市民体育館、公民館、学校体育施設など、**多様な場所** で実施
- ・ **多世代・他種目** な活動



もう少し詳しく「地域クラブ活動」

- **運営主体**
自治体や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、文化芸術団体など
- **活動場所**
学校施設、社会教育施設、民間の施設
- **指導者**
地域の指導者、学生、退職教員、保護者等 様々な関係者
- **参加費用**
可能な限り低廉な会費、用具代や交通費の実費負担

奈良市の取組

- 有識者等による検討会議の開催
「奈良市学校部活動のあり方検討懇話会」
- 実態把握アンケートの実施 等
本事業の進捗は、奈良市教育委員会事務局学校教育課のHPで確認できます。

